

柏市立松葉中学校 学校評価結果分析

学校教育目標

「自ら学び、力強く生きる生徒の育成」

目指す生徒像

「好奇心にあふれ 生きた学びができる生徒」

「自ら考え 判断し 行動できる生徒」

「思いやりのあるコミュニケーションができる生徒」

学校評価は、今年度の学校経営を振り返り、成果と課題を明確にし、改善を図るために行っています。単にアンケート結果の数値の羅列ではなく、今年度の学校経営の重点に対しての達成度を評価し、来年度の松葉中の重点を定めるための指標としていきたいと考えます。

アンケート結果を目指す生徒像の3つに分類し、いくつかのアンケート項目をまとめて分析しています。各数値に関しては、アンケートの質問に対して、「そう思う」「だいたいそう思う」などの肯定的な意見の割合を記載しています。

Ⅰ 「生きた学び」について

項目として「授業について」「家庭学習について」「将来のことについて」「部活動について」「タブレット端末の利活用について」に分類しています。〈表Ⅰ〉は項目ごとにまとめた数値です。

学びについては、保護者には「わかりやすい授業が行われている」ことについて、「わからない」という評価が高かったことから、授業参観の実施を増やすことで、お子様の学習の状況が伝わるようになります。

家庭学習については、生徒・保護者とも習慣化されていないという結果になり、昨年に引き続き課題となりました。座学のみが家庭学習ではなく、興味のあることについて見識を広げること、目指す生徒像の「生きた学び」に大きく関わってきます。教職員は、「家庭学習をするよう積極的な働きかけを行っている」ことについて高い評価をつけていますが、働きかけだけでなく具体的な取り組み方を指導できるよう進めていきます。

部活動については、今年度の途中から、部活動の地域移行が開始された影響で活動時間が減少していますが、昨年度と数値が概ね変わっていないことから質を重視した活動ができていくことがうかがえます。

タブレット端末の利活用については、生徒・保護者ともに昨年度と大きく変わっていないことから、「筆記用具のように使用する」ことについて順調に段階を踏めていることがわかります。

生きた学びの実現には、知識の積み重ねではなく、得た知識をどのように活用していくのか、他者との協働によりどのようにして課題解決を目指すのかという力が必要になります。学校では、その力の育成に向けて、授業改善を日々実践しているところです。

〈表Ⅰ〉

	生徒	保護者	教職員
授業について ・わかりやすさ、主体的な取り組み、 協働学習への意欲	80%	52%	89%
家庭学習について ・習慣づけ、主体的な学び	73%	54%	85%
将来のことについて ・夢への努力、保護者との対話	70%	76%	82%
部活動について ・意欲的な参加、心身の成長	86%	74%	93%
タブレット端末の利活用について ・端末の有効活用、ルールを守った活用	85%	61%	67%

2 「自ら考え、判断し、行動できる」について

項目として「学校・社会のルールについて」「学級活動・生徒会活動への参加について」「自ら考え、判断することについて」に分類しています。

<表2>は項目ごとにまとめた数値です。

自ら考え、判断し行動することについては、「生きる力」としても重視されている資質・能力です。本校でも、これからの不確実な社会を生き抜くうえで最も大切にしたい力の一つです。

昨年に引き続き、学校や社会のルールに則って生活することは、高い割合でできており、大人から見ても評価している項目です。

学級活動や生徒会活動では、活動を重ねていく中で、良い人間関係が構築されていきますので、意欲的に取り組むことができているという評価は今後の人間関係づくりにも良い影響があると考えます。

自ら考え、判断することについては、生徒達は高い自己評価をしています。また、判断を誤った際には自分の考えを修正できると回答した生徒も多く、様々な場面で自身の判断を繰り返し行っていることがうかがえます。

今後も生徒・保護者・教職員でルールのあり方や、学校生活をより良くするために必要なことの検討を進めてまいります。

<表2>

	生徒	保護者	教職員
学校・社会のルールについて ・ルールを守っての生活	98%	98%	100%
学級活動・生徒会活動への参加について ・意欲的な活動、良い人間関係づくり	87%	74%	92%
自ら考え、判断することについて ・自分の判断での行動、自分の考えを持つ、 誤った判断の際に修正できる	91%	76%	—

3 「思いやりのあるコミュニケーションができる」について

項目として「思いやりについて」「他者への理解について」「学校生活での意欲について」に分類しています。<表3>は項目ごとにまとめた数値です。

思いやりを持って行動していると自己評価をした生徒は多く、保護者からもご自身のお子さんに対して高い評価となりました。

同様に他者への理解についても、友達の考えを理解しようとする回答した生徒が多くいました。しかし、本校でもSNS上でのトラブルが増加しています。他者への理解不足や思いやりのない発言から始まるが多くなっています。今後も、思いやりと他者への理解は大事にしていきたいです。

人間関係の構築については、学校生活において生徒会活動や部活動、学校行事や学級活動などの様々な場面を繰り返し行いながら醸成されていくものです。行事のあり方や目標など、改めて検討していきます。

<表3>

	生徒	保護者	教職員
思いやりについて ・思いやりを持って行動している	97%	88%	100%
他者への理解について ・他者の考えを理解し、共に活動をする	88%	82%	—
学校生活での意欲について ・人間関係を構築し、意欲的に生活する	94%	—	96%

4 「その他」について

項目として「相談に対しての教職員の対応について」「人権を尊重した指導について」「学校の情報伝達について」に分類しています。〈表4〉は項目ごとにまとめた数値です。

相談に対しての教職員の対応については、生徒・教職員と保護者との回答に大きな差がありました。学校体制として、一つ一つの課題に真摯に取り組み、保護者との連携を密にしていきます。

人権を尊重した指導については、生徒と保護者・教職員との回答に差がありました。自分は思いやりを持って行動していると考える生徒は多く、人権を尊重した指導がされていると答えた生徒が少ないことから、周囲に対する不安があるようです。学校としては、今後も生徒同士、生徒と教職員の信頼関係の構築に力を入れていきます。

情報伝達については、できるだけわかりやすくスムーズに伝達していけるよう、今後も取り組んでいきます。各連絡をデジタル化していくことを取り組んでいきます。

〈表4〉

	生徒	保護者	教職員
相談に対しての教職員の対応について ・丁寧に応じている, 親身に対応している	66%	65%	100%
人権を尊重した指導について ・いじめ防止	62%	78%	100%
情報伝達について ・HP, メール, おたより	—	86%	93%

5 全体をとおして

アンケートの回答にご協力いただき、本当にありがとうございました。

学校行事や授業参観など、体育館の改修工事もあったため、一部制限を設けての実施となりましたが、多くの保護者の方々に学校の様子を見ていただくことができました。

いただいたご意見を元に、教職員一同、目指す子ども像を今一度見つめなおし、教育活動において、どこに重点を置き生徒達の成長を支援していくかを検討していきます。